

会長 阿部信一
TEL 025-273-1572

事務局 井村健一
新潟市北区すみれ野2-10-12
TEL 025-259-7152

会報・編集委員会代表
浅野巨寛
長岡市金町2-2-17
TEL 0258-52-3998

新山協ニュース

新潟県山岳協会ホームページ <http://www.echigo.ne.jp/~nma/>

六八回国民体育大会報告 成年女子リード七位入賞!

報告者 遠藤 俊一

第六八回国民体育大会は平成二五年九月二日から一〇月八日まで東京都において開催された。山岳競技は東久留米市で平成二五年一〇月四日から六日まで三日間の日程で開催された。会場となった東久留米市スポーツセンターには地元中学生作成の各県応援の旗が立ち並び歓迎ムードに包まれていた。本県から成年男子は田中聡、大久保貴史、成年女子は片桐麻由子、瀧澤愉未、少年男子は南雲純太、柿村知寛、少年女子は大月英里香、渡辺優梨菜の各選手が出場した。成年男子は各県一チームの出場枠があるが、他は北信越地区予選を勝ち抜いての出場で、本県は全種目への出場を果たした。

一〇月四日、成年男子ボールドリング予選は全国四七チームが競い、本県チームは田中

選手完登一、六六位、大久保選手完登三、四〇位でチーム順位は二四位であった。成年女子ボールドリング予選は地区予選を勝ち抜いた一八チームが競い、本県チームは片桐選手完登二、一五位、瀧澤選手完登二、二四位でチーム順位は一一位であった。

屋外特設のクライミングウオールで行われた少年男子リード予選は地区予選を勝ち抜いた二〇チームが競い、本県チームは南雲選手高度二八+、一五位、柿村選手は高度二五、三四位でチーム順位は一六位であった。少年女子リード予選は地区予選を勝ち抜いた一八チームが競い、本県チームは大月選手高度二八、二五位、渡辺選手高度三三+、一八位でチーム順位一〇位であった。いずれの種目も残念ながら八位までの決



7位入賞の 片桐・滝沢選手

勝には進むことができなかった。一〇月五日は生憎の雨の中の競技となり、リード競技は雨に濡れたクライミングウオールの修復に手間取り、競技開始は一時間ほど遅れた。九時から予定されていた成年女子の選手にとってはコンデション調整が大変だったと思われる。その競技順一番が新潟チームで、片桐、瀧澤両選手は同時にスタートしたが、瀧澤選手はホールドが滑り競技を中止し、片桐選手の競技終了後、一人で競技やり直しとなった。そんな悪条件ではあったが、片桐選手高度三四+、七位、瀧澤選手高度二九+、一八位で、予選を七位で通過した。しかし、七位に三チームがはいり九チームが決勝進出となった。八位までの入賞は六日の決勝の結果待ちとなった。成年

男子リード予選は田中選手高度二六、五六位、大久保選手は二三位であった。少年男子ボールドリング予選は南雲選手完登三、一六位、柿村選手完登一、三〇位で、チーム順位は一二位であった。少年女子ボールドリング予選は大月選手完登一、二五位、渡辺選手完登二、一六位で、チーム順位は一一位であった。二日間の予選競技を通じ決勝進出は残念ながら成年女子リード競技のみであった。一〇月六日、新潟県の期待

を担って唯一決勝進出を果たした成年女子リード競技が開始された。本県チームは競技順一番で果敢にウォールに挑戦した結果、片桐選手は高度三七、一二位、瀧澤選手は高度二七+、一五位と健闘し、チームでは予選順位と同じ七位と見事入賞を果たすことができた。

平成一九年に片桐選手と瀧澤選手は初めてコンビとなりクライミング八位、平成二〇年はリード七位、二一年はボルダリング七位と入賞してきた。以来の久々の入賞でした。長年にわたり活躍している両選手を称えたいと思う。

今年度もう一步力の及ばなかった成年男子、少年男女では、来年度団体に向けて新しい力が台頭してくることを大いに期待したい。



平成二十五年度安全登山講習会 (救急法講習会) に参加して

会報・編集委員 大平 美紀 (新潟山岳会)

一月二六日秋晴れの登山日和に燕・弥彦総合事務組合 吉田消防署にて救急法講習会が行われた。県内の加盟山岳会と一般の方を合せ43名が参加した。

午前中は消防署職員指導の下で心肺蘇生とAEDの使用法をはじめとする救命処置、応急手当について実技講習が行われた。救命処置の流れは何度もくり返し、とっさの時

も落ち着いて出来るように体に染み込ませる必要があると言ふことを具現化するよう

に、一人ひとり本番さながらの意識で臨み、くり返し意見交換等しながら行った。なお、開催場所の燕・弥彦総合事務組合では毎月第三土曜日に普通救命講習を行っている

(参考: http://www.tyso.go.jp/topics_news/20120713.pdf)

山でいざという時に互いに助け合おうと意識して実践訓練する救命講習は、現場での

想像を掻き立て、経験はしたくない「実際」に少しでも近づけるのではないかと思う。山岳会等でパーティーを組んで登山する私たちにとっての最低限の資格として、二三年に一度は受けて行きたい講習であろう。

また、講習では他に気道異物の除去や止血法、簡単な搬送法などを教えてもらえ、最後に参加者からの質問コーナーもあり、有意義な三時間の講習となった。

午後からは、南魚山岳会の井春文遭難対策委員長からの遭難対策における概論と高体連の新保雅稔講師による搬送法、映彩山岳会の楢井利幸講師によるロープワークの講習が行われた。

井委員長から「常に新しい情報、技術を身につけていたきたい」また「いろいろな方法がある中で、確実にできるものを実践していくように」との話をいただいた。登

山には想像力が大切で、読図技術や気象情報の分析、生活技術など自身の持っている知識や技術と事前の予測から装備を用意し、エスケープルートを選び、山行に臨むことで安全登山が可能になるのだと思う。メンバーの力量を把握し、それをフォローできる技術がリーダー、又はチームとして必要となる。「安全に楽しめる山行」わたしたちが望んでいるものは主にそれではないか。その目的を一〇〇%可能に近づけるために最新技術や情報を学び、仲間に伝え、基本的技術を何度もくり返し行うことの大切さを再認識した。

ロープワークでは、初心者

の悪場通過時の確保の仕方について講習いただいた。楢井講師より、「ロープを出し惜しみしない」「面倒がつて出さないで事故が起こることの

例を上げて注意喚起が行われた。搬送法ではパーティーの装備、その場にある自然のものなどを活用した事故者の搬送法を講習いただいた。主にザックを使ったものを教えて



雨具やザックを使った搬出法

いただいたが、大事なことは教科書通りに行くことではなく、それを基本としながらその場にあるものを事故者の怪我の部位や安楽に安全に素早く対応できるようにとの思いによって工夫して行うことと考える。新保講師より、「二次遭難は絶対にあつてはいけない」とハードシェルを事故者に着させたために自身が濡れと寒さから動けなくなり、人数不足からバークセザるを得なくなつた事例等何つた。動転してしまつている現場では起りやすいことではないかとも思う。客観的視点をいつも持ちながら対処していくことを心がけて山に臨みたいと思う。



緊急時に直接、体にセットするグリーン結び

遭難対策委員会が行う研修会は六月が渡辺輝男講師による読図技術など登山を行うわたしたちにとつて大切なもの、魅力的な内容が取り上げられている。今後個人的には山岳気象の専門家からの机上講習と実地講習、事前準備の重要性を再確認するための登山計画書の作成講習など多様な遭難対策技術を学べる講習を開いていただけたらと思う。

最近、山の会合に顔を見せられなくなったので、どうされたのか気にしていました。腰が悪く車椅子の生活になつたと伺っていました。でも上半身はお元気で山談義に興じて花を咲かせていると伺いましたので安心していました。それが突然の訃報に接し驚きにただ唾然とするばかりでした。

室賀さんには生前、長いことお世話になりました。岳界に残された功績は余りに大きく、新潟県山岳協会長・JAC越後支部長など長期にその要職を務められました。藤島JAC関係者の斎藤平七・私もお席をお願いした者とし

最近、山の会合に顔を見せられなくなったので、どうされたのか気にしていました。腰が悪く車椅子の生活になつたと伺っていました。でも上半身はお元気で山談義に興じて花を咲かせていると伺いましたので安心していました。それが突然の訃報に接し驚きにただ唾然とするばかりでした。

五十嵐篤雄・佐藤一栄・望月力・井口正雄の各氏など錚々たる諸先輩方とも交流が深く、私も何度か同行してご指導を受けました。各種の对外事業にも県代表として積極的に参加され意見を述べられました。その独特の雰囲気と発想には常に新鮮味がありました。

一九八七年旧青海町の親不知の断崖上に等身大のウエストン像が建立された除幕式にも出席して頂き、英国大使館員・地元関係者と共に祝賀会を盛り上げてくださいました。その時も山岳会代表として立派な挨拶をされました。

日本山岳会
越後支部名誉会員

小野 健(さわがに山岳会)

室賀さんの死を悼み 生前のご指導に感謝申し上げます

じみになることで、ほんの少し身近に感じられるようになり、またこういった「場」の重要性を認識した。まだまだ遠い存在ではあるが、本当のところは「わたし達の県山 思っている。

て誇りを感じたものです。翌年より日本海に面して立つので「海のウエストン祭」の名称でセレモニーを行つてすでに四半世紀が経ちました。「海のウエストン祭」には毎年一五〇名以上の人が参加する全国的な一大イベントに発展しました。「山の日」の制定に際し県下のJAC事業とする要望もあります。藤島玄さんが元氣な頃、同行された拙宅を訪れ山談義で盛り上がったのもよき思い出です。北陸三県の自然保護会議では登山者が使用するストックで地面を傷め、草花に悪影響を及ぼすと懸念を強調されていきましたのを最近のように思います。新潟県の山岳界はこうした諸先輩が残された足跡が現在に引き継がれ、新しい伝統が生まれてきたのです。活躍された諸先輩が逝かれて、時代が変わっていくのは自然な流れということでしょう。今は高所より見守って下さっていると思つています。

登山・スキー・テニスの専門店

ヒトと地球のインターフェイス

ICI 石井スポーツ
新潟店

新潟市中央区堀之内南1丁目16-52 TEL(025)241-5134代
営業時間/平日10:30am~8:00pm 休日10:30am~7:00pm

**登山・ハイキング・クライミング
テレマーク&山スキー**

パーマーク
Mountain & Outdoor
Parr Mark

長岡市西宮内2-97(長岡市役所裏通り)
TEL0258(37)1200-FAX0258(33)1164
●営業時間/AM10:30~PM8:00水曜定休

<http://www.parrmark.co.jp>

今秋 晴れの授章

その地域の発展と山と自然保護・
岳人の育成に日々精進

旭日単光章に輝く



山田 智子さん
(越後山岳会)

藍綬褒章に輝く



遠山 實さん
(三面山岳会)

自然公園功労者・環境大臣表彰に輝く



田辺 信行さん
(下越山岳会)

長年その地域の発展と、その地域の自然保護の思想に基づき、その普及への尽力。登山者への献身的な安全指導に貢献された、旭日単光章の山田さん、藍綬褒章の遠山さん。自然公園功労者・環境大臣表彰の田辺さん。ともに地域の発展に寄与、岳人育成に尽力された、三氏の多くの功績が認められ、今秋の発表、授章となった。

賛助会員入会 ご入金のお礼

次の皆様から、ご入会、ご入金を頂きましたので、ご報告させていただきます。

* 9月26日～11月18日現在のご入会、ご入金状況です。

成海 修 (峡彩山岳会) 本間一人 (亀田山岳会) 平田大六 (関川村山の会) (敬称略、順不同)

新潟県山岳協会 会長・阿部 信一 理事長・遠藤 俊一 総務委員長・宮崎 幸司

平成25年第2回理事会議事概要

- ・日 時 平成25年11月17日(日) 午前10時～同12時まで
- ・場 所 長岡市 アオーレ長岡西棟1F 市民交流ホールA
- ・出席者 27名

阿部会長の挨拶に続き議事に入った。

1. 議題

(1) 個人会員制度の導入について

日本山岳協会が公益法人化し、公益的な事業を主体として活動することとなり、その加盟団体たる当協会としても公益的な事業に取り組んでいくことが求められることとなった。また、文部科学省によれば日本の登山人口は8百万人とも1千万人とも言われており、そのうち何らかの組織団体に加入している登山者は10万人程度で、圧倒的に未組織登山者が多い。他県岳連で導入が進んでいるが、当協会としても未組織登山者に門戸を開き、個人会員制度を設け、当協会の行う事業に参加をする中で登山技術の習得や登山情報交換を通じて広く安全登山の普及を進めたいとの趣旨で、導入したいとの提案が理事長からなされた。

質疑応答と意見交換がなされ、基本的には個人会員制度の導入を導入する方向で本日の意見を参考に具体的な制度を提案し、次回理事会にて審議をすることとした。

2. 報告事項

(1) 規約改正について

前回理事会で審議された規約改正の改正素案を理事長から説明。逐条ずつ審議し、総則、事業、目的、会員、役員等について大筋の方向性を出した。これらの方向をさらに詰め、次回理事会に規約改正の改正案を提出することとした。

(2) 各委員会報告

・海外登山委員会（小林委員長）

委員長は26年1月から3月までネパールへ行くので、不在となる。了解願いたい。

・総務委員会（宮崎委員長）

賛助会員は現在31名となっている。平成26年新年会は平成26年1月19日（日）午後2時30分から直江津駅前「ホテルセンチュリーイカヤ」にて開催する。

・競技委員会（今井委員長）

4月28日新潟県クライミング選手権開催。7月27～28日北信越国体を妙高市にて開催。10月4～6日国体東京大会に全種目出場、成年女子リード7位入賞。

国体選手強化事業として強化合宿を17回実施。その他関係諸会議に委員長が出席した。

・会報編集委員会（浅野委員長）

現在室賀名誉会長の追悼号発行に取り組んでいる。今後1ヶ月おきに発行を予定している。

・自然保護委員会（伊藤委員長）

本日午後から自然保護集会をこの会場で開催する。盛会となるよう協力願いたい。新潟日報社の取材もある。

・ジュニア委員会（稲田委員長）

12月21～22日にクライミング高校選手権大会が開催される。本県から、男子は南雲純太、女子は田中千華が出場する。新潟県社会福祉協議会で盲人のクライミング大会を開催する。先方の要請により委員長が手伝いに行く。

・遭難対策委員会（楡井副委員長）

11月16日吉田消防署において、安全登山講習会を開催した。午前は救急法講習会、午後はロープワーク、搬送法の実技講習の内容。参加者41名（内一般参加者2名）。

・指導技術委員会（嶋原委員長）

アルパインクライミング公認山岳指導員及びブスポートクライミング公認山岳指導員の養成講習会検定会の26年度受講者の募集を行っている。申込者が12名に満たない場合は実施しないことがある。各所属山岳会の推薦が必要。

以上



25年第2回理事会



魚沼の里

www.uonuma-no-sato.co.jp



www.hakkaisan.co.jp

ALways Security OK

ALSOK

新潟総合警備保障(株)

〒950-8633 新潟市東区小金町1-17-20
TEL 025-274-1965 FAX 025-271-3445

寄贈図書と会報紹介

岳神 峡彩山岳会 創立60周年記念誌

峡彩山岳会60年の歴史のなかで創世記のこと、懐かしい岳人との付き合いのことや会員のこと、事業実績など貴重な文献も目をひく。会員の豊富な山行や資料の収集、編集、執筆に携わったスタッフの労を讃えたい一冊となっている。

発行日 平成25年10月26日

発行者 峡彩山岳会会長 成海 修

編集者 小山一夫 新潟市西区小針1丁目21-4 025-265-4417

B5版 65頁



飯豊 第7号 下越山岳会 創立80周年記念誌

主として下越地方の豊かな自然と山々、会長佐久間雅義氏の序文にある、劉希夷の漢詩を少しもじって「年年歳歳山相似たり、歳歳年年人同じからず」からくる無理せず、気負わず。表されたように会員たちの個性豊かで、明るくてのびのびとした行動もあるが、下越特有の厳しさを盛り込んだ記念誌となっている。資料の収集、編集、執筆に携わったスタッフの労を讃えたいボリュームのある一冊となっている。

発行日 平成25年9月28日

発行者 新発田市諏訪2丁目2番1号 佐久間雅義方 下越山岳会

編集者 田辺信行 B5版 322頁



山燦燦

多質にわたった内容と豊富なカラー写真が見る者を惹きつける。一個人としての発行誌としては大自然の中の生物、植物、昆虫、民俗など多岐にわたるが、筆者の「山に生かされて」の謙虚な心情と、豊かな感性よる綿密な観察力、内容などに加え編集の綿密さ丁寧さにも好感をおぼえる。一気に読み下してしまう一冊だ。

発行者 遠山 實 (三面山岳会) 958-0211 村上市高根472 0254-73-0467

B5版 81頁



編 集 後 記

▲山々から紅葉の知らせが届く頃から、あわせてクマや他の野生動物の出没情報が今年は少ない気がする。栃尾地域でもクマやサルに関しての出没や被害の情報は例年に比べて少なかった気がする。地域の山に踏み入ってみると、食餌に関してはブナの実生は少ないと思うが、ドングリなどが豊富だったようだ。私達がよく登る横手山は常時クマ、カモシカ、サルなどが出没するところだ。通称千段階段と呼ば



クマの縄張り主張のツメ痕

れている1031段の石段も、谷から谷へ移動する彼らの重要な要所となっている。入口、出口となっている付近はフンがあったり、注意してみるとよく獣毛がひっかかっている。クマなどは自分の彷徨するエリアに見慣れない立て札や看板などがあると角材くらいの物はたたき折ってしまう。毎度この地に入山する常連の方が文学的センスのある方で、詠んだ短歌の木製の札を石段の真ん中の支柱に針金で固定して置いたが、後日入山した片桐参与から破壊力のある爪痕の、歌碑の写真を送信して頂いた。入山に際しては、よく音の通る鈴をつけて遭遇しない事で共存したいものだ。山の幸が豊穡であり、安穏な冬眠に入れることを祈りたい。

編集：浅野